



報道で紹介された美瑛高校 20

◆令和6年9月25日(R6. 10. 5びえい新聞)

18名の中学生が参加し、オープンスクールを行いました。美瑛高校には、少人数教育、MA+CHプロジェクト、ドローン活用など、他校にはない魅力がたくさんあります。来春たくさんの生徒が美瑛高校に入学し、新たな取り組みが実を結ぶと嬉しいと思います。

校内見学や体験授業などで学校生活を体感 美瑛高校オープンスクールで特長をPR



美瑛高校の雰囲気や中学3年生と保護者が体感。進学を希望する上川管内の中学3年生と保護者および引率の教職員を対象とした美瑛高校オープンスクールが、9月25日に同校で開かれた。当日は美瑛中学校の7人を含む18人の生徒と、その保護者や教職員が参加。カリキュラムや支援体制などの説明を受けた後、校舎や授業の見学、授業体験などが行われた。

参加した生徒や保護者等を前に、三上英一校長が「生徒の人数は少ないが、先生が全員を知っていて見守っている。だからみんな元気に学校へ通い、落ち着いた学校生活を送っている。今年度からは地学協働の北海道MA+CHプロジェクトがスタートしており、ドローンの資格取得授業も来年度から導入する。ほかにも様々な資格取得のプログラムを設定しており、大学や専門学校への進学、就職など100以上の進路を実現。充実した町の支援制度の説明も加え、生徒達のがんばりたいことをみんなの後押ししている」と、美瑛高校ならではの魅力を伝えた。続いて学校紹介ビデオが上映。カリキュラムや進路状況、就学支援制度などが説明された。また、今年2月に札幌市で開かれた「探求チャレンジ・ジャパン」に上川代表として出場した3年生4人が発表内容を報告した。



その後、参加者は校舎や授業の様子を見学。国語・理科・数学から選択した授業を各教室で体験した。また、希望者には弓道部や軽音楽部の部活動、ドローンの体験が用意。部員や担当教職員が、参加した中学生に手ほどきした。新たな取り組みがスタートした美瑛高校だが、来年の入学者の確保は大きな課題。来春には、一人でも多くの入学生が美瑛高校の門をくぐることを期待したい。

組みがスタートした美瑛高校だが、来年の入学者の確保は大きな課題。来春には、一人でも多くの入学生が美瑛高校の門をくぐることを期待したい。